



からいも フェスティバル



大津町のさつまいも について

さつまいもは、熊本では「からいも」と呼ばれ、特に大津町は、熊本県下生産量は1番を誇っています。

阿蘇の火山灰を含む赤土層が、広く大津町に分布して、大津町全域で生産されています。

現在、大津町のさつまいも専業農家は、8月から11月まで収穫に追われています。その収穫したさつまいもは市場へも出荷されますが、多数は貯蔵庫に貯蔵されます。12月から翌年の3月にかけて、貯蔵して更に甘くなったさつまいもを市場に出すため、2回目の出荷時期を迎えます。

主な栽培品種は、高系14号を栽培しています。この品種は、しばらく貯蔵するとさらに甘みを増す特質があり、その特質を利用してこのような出荷形式を大津の農家は行っています。

なお、JA菊池大津支所のからいも部会は、高系14号をウィルスフリー化した苗を使い、土地改

良により減農薬栽培のからいもを「ほりだし君」のブランドで売り出しています。

この特産品の知名度を上げようと、さつまいもの名前を付けたイベントを企画しました。それが「からいもフェスティバル」です。

からいもフェスティバルは、平成元年を1回目として、毎年11月第2日曜日に開催して16回開催してまいりました。今年**は11月13日（日曜日）です。**



からいもを掘る家族

いろはにほへと 14

“よ” 葎のずいから天井をのぞく

この文句は中国の古いたとえの、〈管をもて天をうかがう〉が語源である。せまい管の穴のような見解で広大なものに対しても、わかるはずはないという意味である。

それでは固くるしいし、世俗的でないので、表現を俗っぽくして民衆の理解度に近づけたから、管の穴が葎の髄すゐになった。葎の髄といっているが、実は髄をとりのぞいた葎の茎の穴のことである。これは、まちがえたのか、わざとそういったのかわからない。とにかく、独断偏見の横行を評したもので、正論の俗語的表現である。

編集後記

国の方では少子化に歯止めを掛けないと日本の将来はないと焦っています。若い夫婦にとって子育ては大変です。現実には働ききしないと生活は苦しい。働いている間、だれが子どもの面倒を見るのか。会社は子育てに理解があるのか。

大津町は子育て行政が進んでいるとして全国から視察に来られます。だがいまだ不足する部分があるよ

議会広報編集特別委員会

委員長 俊彦
副委員長 忠道
委員 光明
坂本 則三
新開 ムツ
鈴木 鈴

この議会だよりはリサイクル推進のため古紙一〇〇%の再生紙を利用しています。